

「英語を学ぶ ～みつけてみよう、あなたの学習法～」

吉井 誠

2016年10月29日、熊本県立大学2号館中講義室2において、平成28年度文学部フォーラム「英語を学ぶ～みつけてみよう、あなたの学習法～」を開催しました。本フォーラムは、英語を学ぶ効果的な学習方法についてともに考える機会として企画しました。高校生・大学生による発表、多読指導と研究の第一人者である高瀬敦子氏による基調講演、その高瀬氏、信愛女学院高校の英語科教諭大津氏、英語英米文学科からLavin氏、飯村氏によるパネルディスカッションを行いました。当日は約150名の聴衆が熱心に聞き入り盛況のうちに終わりました。

当日のプログラムの概要は以下の通りです。

<次第>

13:00 開会挨拶 半藤英明 熊本県立大学学長

発表「私が見つけた英語学習法」

山下 紘佳 信愛女学院高校3年

小川 広洋 英語英米文学科1年

徳永 真歩 英語英米文学科4年

質疑応答 コーディネーター 吉井 誠 文学部教授

13:40 基調講演 高瀬 敦子 関西学院大学非常勤講師

14:10-14:25 休憩

14:25 パネルディスカッション

パネリスト 高瀬 敦子

大津 秀司 信愛女学院高校教諭

Richard Lavin 文学部教授

飯村 英樹 文学部教授

コーディネーター 吉井 誠

15:45 閉会挨拶 砂野幸稔 熊本県立大学文学部長

16:00 閉会

発表「私が見つけた英語学習法」

フォーラムは学習者からのそれぞれの学習方法についての紹介で始まりました。信愛女学院高校3年生の山下紘佳さんが英文のパラグラフ翻訳による学習方法について

て、次に英語英米文学科 1 年生の小川広洋君からスピーキング力をあげるための工夫、最後に英語英米文学科 4 年生の徳永真歩さんから映画視聴を工夫した英語学習法について紹介がありました。発表の内容は以下の通りです。

「和訳学習法」

信愛女学院高校 3 年 山下紘佳さん

私が高校生活の中で見つけた英語の勉強法は、英語の長文を日本語に訳すことです。英語の長文といっても、入試問題のような難しい文章ではなく、環境問題や社会問題に関する文章から、ジョークを含んだ物語など、200 から 600 単語程度の長文を訳してきました。

やり方は、ノートを用意し、左側に印刷した英文を貼り、右側に日本語を一行ずつ空けて書き、英語の先生に添削してもらいます。その後、添削された部分を確認して、英文を見ながら、日本語で、声を出して読みます。わからない単語の意味などは、コピーした英文に直接単語の下に書き込みます。私は、1 回につき、2、3 段落、300 単語程度を、できるだけ毎日訳しました。その中で、私がやってよかったなと思う点を紹介します。

一つめはたくさんの単語を知ることができるという点です。市販されている DB4500 などの単語帳に出てくる単語を覚えることも確かに大切だと思います。しかし、同じ単語にも多くの意味があり、時と場合によって使い分ける必要があります。長文を訳す中で、知らなかった意味や、似たような意味を持つ英単語に出会うきっかけとなりました。さらに、環境に関する文章などで頻繁に出てくる英単語や熟語など、単語帳に載っていない英単語も出てきて、その単語の意味や使い方を知ることができました。

二つめは文法を見抜く力がつくという点です。以前から文法のテキストなどを使用していましたが、それらと違って英語の長文には、どんな文法が含まれているか、大事なことは何か、そういったヒントはほとんどありません。ですから、自分で見つけ、正しく日本語に訳す必要がありました。特に一文が長いほど、関係代名詞や、接続詞、省略などがたくさん含まれており、どこまでが主語なのか、どの部分が修飾しているのかと、とても悩みました。始めはよく混乱して、間違った読み取りをしていましたが、数をこなしていくうちに、so ~ that の用法など、離れていて、見落としがちな文法にも目が行くようになり、修飾している部分、修飾されている語の区別が付き、主語と述語を正しく見分けられるようになっていきました。また、無生物主語といった、訳し難い文章にも慣れていきました。

三つめは、英語以外のたくさんのことを知ることができるという点です。私は今ま

で、評論から物語までたくさんの英文を読み訳してきました。スラムで暮らす人々の現状、色んな国の政治体制、ある国の文化や風習、挫折から立ち直った人の話、結婚や心温まるエピソードなど、興味がなければ知る機会さえない国外、国内の話を知ることができました。

このように、日本語に訳すことで、その英文に対して自分がどこまで理解したか、目に見える形で知ることができました。さらに、自分の単語力、文法力も確かめられ、また英文を読むことに対する抵抗感が薄れていき、読むスピードも速くなっていきました。初めは多少面倒だと思いましたが、数をこなしていくうちに、英文にも慣れて、段々と辞書を引く回数が少なくなり、何より、こんなにたくさん読めたのか、と英語に対して自信がついてきました。易しいものから始めて行き、自分のペースで続けて行くことがいちばん大切だと実感しました。これからもさらに、物語や、歴史、文化に関する文章等を読み、色んな知識を身につけて行きたいと思います。これで私の話を終ります。ご清聴ありがとうございました。



「スピーキング力を伸ばす学習法」 英語英米文学科 1年 小川広洋さん

英文1年の小川です。今日私は、英語学習に関して、特にスピーキングに絞って話をしていきたいと思います。まずこのグラフを見てください。これは、私の英文科の友だちが、英文科の1年生を対象にして、英語教育についてアンケートをした時の結果の一部をもらってきました。題名は「中highで学ばなかった、身につけたかった力」ということで、英文科の学生ならではの結果にはなると思うのですが、見たところ、8割以上が日常英会話を含めて英会話が足りなかったと感じているようです。これには私もすごく同感しています。私は実際に海外に渡航する機会があって、中学校の英

語の文法や知識をかなり身につけていると自信を持っていたのですが、実際に会話してみると、すごく伝わらない部分がたくさんあったので、この結果にはすごく納得しています。ただ、学校で会話の力を伸ばすことができないのであれば、他に自分で学習する機会を作る必要があると思って、自発的に活動を始めました。

まず英語は、よく input と output、もしくは 4 つの ability に分けられると言われますが、実際に会話していると、たとえばリスニングで相手の言ったことを聞いた後に、スピーキングにするまでに、Processing ability、要は相手が言ったことを聞いて自分が話すことを考える力や、自分が何を言うのかをクリエイトする力が求められます。日本人はだいたいこれを日本語でやるとかなり時間がかかるので、会話の中では英語を日本語に訳す時間はありません。なので、私はこの Processing ability にすごく重きをおいて学習しています。話すためにこの Processing ability を鍛えるときに、私がよく使っている三つの方法が、英英辞典の活用と、英作文と独り言です。

まず英英辞書の活用ですが、もちろん英語で英語の単語を理解するという意味もありますが、特に Paraphrase、言い換えのアイデアを作る方法を身につけるとするのが大きいです。たとえば White Day など日本特有の文化や習慣を説明するときは、外国では White Day が何なのかわからないので、他の英語を使って White Day を説明しなければいけません。なので、英英辞書を活用することによってどのように他の英語を使って、White Day を説明するのが身につけば、スムーズに会話を成り立たせることができるということです。

次に英作文について、自分で使える文を自分で作ってみることについてです。たとえば、ユメタンという単語帳に載っている gratitude という単語があって、だいたい例文が下に 2,3 個載っていると思います。それはあくまで使い方を理解するものであって、意味のわからない例文がたまに載っていますが、使うことはありません。私だったら、この前イギリスに行ってきたので、I came back from the UK with gratitude to my host family. みたいな感じで、自分で絶対使うだろうという文を作ること、覚える効率もよくなると思います。

最後に独り言についてです。独り言に関しては、学校で英会話の授業が少なかったので、個人的にできることとして、始めたものの一つです。私は独りで何かをしている時、たとえばお風呂に入っている時だったり、車で通学している時だったり、そういう時によく英語で独り言をします。内容は何でもいいんです。大事なのはスピーキングの機会を作るということです。なので、最初は簡単に話せる自己紹介や、趣味について話すのがいいと思います。自分で文章を作ったり、うまく使いこなせるように練習したりするとき独り言というのはすごく有効で、使いたい表現を事前に決めて

おくと独り言もうまくなると思います。独り言をしていて身についたと思う能力は、即時性です。スピーキングにはライティングと違って日本語を英語に訳したり、SVOのような学校で学ぶ文法というのは頭に考えたりする時間がないので、言いたいことをすぐに英語で考える必要があるんですね。なので、もちろん言うことを頭で整理するのは必要ですが、それを日本語でやっちゃうと時間がかかるので、英語でやる力をこれで身につけます。加えて発音も以前よりかなりよくなったと言われるようになりました。文法ミスなどは、話していて自分で気付くので、その後に英語の辞書を引けばいいですし、とりあえず、話している、独り言をしているときは話し続けます。さっきも言ったように Paraphrase を使いこなして、わからない単語を表現したりすることで、独り言を続けるということが大切です。何回も発話することでフレーズが身につく、センテンスがイディオム化するので、実際に会話したときに役立つと思います。以上で僕の発表を終わります。



「映画視聴を工夫した英語学習法」 英語英米文学科 4年 徳永真歩さん

熊本県立大学英語英米文学科 4年の徳永真歩と申します。どうぞよろしくお願いたします。吉井先生もおっしゃったとおり、私はリスニングのスキルに焦点を当ててお話ししたいと思います。

私は映画で英語学習という方法を学びました。もともと映画が好きだということもあって、取り組みやすかったというのと、楽しみながら継続することができたので、私にとってはやりやすかったかなと思います。今日は今から、始めたきっかけ、学習方法、そしてその効果、私ができるアドバイスについてお話できたらいいなと思っております。

始めに、きっかけですが、県立大学の方だったらわかると思いますが、LLC という、語学学習ルームが学内にあります。そこにはいろいろな DVD と本、パソコンがありますが、私はそこで映画を観るようにしました。初めて友だちと LLC に行って観た映画がこの『マンマ・ミーア』なんですけど、ただ私はミュージカルが好きということで、この映画を友だちと観ました。その時初めて字幕なしで、英語だけで観ようと思いました。その時に映画の映像だったりとか、音楽に頼ってストーリーはもちろん理解できたんですけど、英語自体を聞き取ったりとか、理解をしていたかというところではなかったの、すごく悔しかったのを覚えています。でも友だちは理解できていて、すごく英語も聞き取れていたの、そこですごく私のモチベーションが上がって、これから映画を観て聞き取れるようになろうと決意しました。

次に私なりの学習方法をご紹介します。まず始めに音声は必ず英語で聞くようにしました。次に字幕なんですけど、目標としては字幕なしで、ということだったんですけど、映画を観て難しかったりだとか、最初の頃は本当に英語を聞き取るのが難しかったので、英語の字幕を付けたり、それでも難しいときは日本語に替えたりとかしました。映画を選ぶ際には、自分の好きな映画を観るようにして、好きなジャンルや、好きな俳優がいるような自分の興味に合うような映画を選んで楽しんで観るようにしました。単語、表現など、映画の中で難しいところが出てきたりもするんですけど、あまり細かいことはその場では気にせずに、映画を楽しむということを重視しました。それでもやっぱり単語だったり、表現で気になるものは映画を観終わってから調べたりはすることがありました。あとは、映画は時間を取ってしまう、ということがあるので、なかなか忙しいとは思んですけど、私なりに空いている時間を使って、学校にいる間は、授業の空き時間を使って、あとは放課後、空いている時間を使って観ていました。

実際に私が今まで観たものを紹介します。まず始めに、聞きやすい映画を紹介します。映画にはいろいろな種類があって、始めはディズニー映画がすごく好きだったので、英語も聞き取りやすく、このようなディズニーの映画をたくさん観ました。こういうものは字幕なしでも簡単に観られるので、よく自分の自信にもつながって、すごくモチベーションも上がったのではないかなと思います。次に、今まで観たことがあるような映画を字幕なしで挑戦したりもしました。『パイレーツ』とか、『ハリー・ポッター』とかすごく有名なので、字幕付きで観たことがあったり、日本語で観たことがあったりすると思うんですけど、そのストーリーを知っている映画を字幕なしで挑戦しました。でも『パイレーツ』を観たときに、海賊独特の訛りというか、そういうものがあって、難しいなと思うこともあったんですけど、そういうときは英語字幕をつ

けたりだとか、日本語に替えたりもして、あまり無理せずに取り組むようにしていました。

映画ではなく、ドラマなんですけど、映画だけではなく海外ドラマもいくつか観ました。ドラマだと一話が40分ちょっとで終わるので、あまり時間がないときにも観られると思って、観るようにしていました。ミュージカルが好きなので『glee/ グリー』を観たり、ニューヨークの街並みとかに憧れて『ゴシップガール』を観たりとか。ドラマだとストーリーが長いのですごく、どんどん観たくなるというか、続きが気になったりして、継続できると思います。

私なりにその効果について考えたんですけど、始めのころはリスニングがすごく苦手で、やっぱり日本語の字幕に頼っていたかなということがあります。でもだんだん英語の字幕に替えるようにして、次は英語の字幕に頼るようになってしまいました。英語の字幕で慣れてくると、字幕の英語を理解するスピードが上がってきます。だんだんそれも、字幕というよりも、音声の方を頼るようになりました。リスニングももちろん上がったんですけど、それと同時に英語の理解力というのも、そのスピードも上がったような気がしました。

最後に私なりのアドバイスです。映画なので皆さんもすごく取り組みやすいかなと思うんですけど、時間がかかってしまいますので、空いている時間、好きな時間にするようにしました。好きなものを観る、ということと、あまり英語の細かい単語だとか、表現をその場で気にするのではなくて、映画を楽しめればいいかなと思います。あとは、短い時間でも区切って活用し、毎日続けられたら英語力はどんどん上がるのではないかなと思います。ご清聴ありがとうございました。



次に関西学院大学非常勤の高瀬敦子氏がご自身の英語学習を振り返りながら英語学習の工夫について話されました。英語学習の教材や機会に恵まれなかった時代や環境においても工夫次第では色々な学習が可能で、まさに不足しているからこそ、限られた教材や機会を最大限に活用し集中して学習してこられた様子がうかがえました。氏のユーモアあふれる楽しい体験談を聞きながら自分も奮起せねばと大いに刺激を受けた出席者は多かったに違いありません。発表の内容は以下の通りです。

基調講演 高瀬 敦子氏

「英語学習の私の工夫」

私は福岡の山奥で育ちました。図書館といえば学校の図書館しかない。本屋さんもない。そんな中、ラジオと新聞、それから大人向けの文学全集は買ってもらっていました。英語の学習については、基礎英語、英会話を小学校5年生から。姉の横で聞いたり、筆記体をまねて書いてみたりしていました。

中学2年生の時に長姉が“Jack and the Beanstalk”の本を買ってくれまして、うれしくて学校に持って行ったところ、たまたま先生の目に留まり、翻訳の添削をしてくださることになりました。

そこから始まって、辞書で guess、make、take などを使った英文を調べてはノートにまとめていました。また、海外文通を始めたんですけども、習った英語では何も書けないので、英語の手紙の書き方という本にある文章を自分に合わせてちょっと変えて利用していました。こうして身についたのが、Writing の基礎、creative writing です。

そのほかに、自転車通学の時間を活用しました。家から学校まで40分、見える景色について大声で英語の独り言を言うんです。これが Speaking の基礎になりました。

その後中3の途中で福岡市内に転校することになったのですが、英語の教科書は難しく、知らないことが山ほど。そこから猛勉強を始めまして、教科書に載っている単語を必死で覚えました。その時に始めたのが Dictation（聞いて、書き取って、意味を書く）です。

高校に入学すると、すぐ大人向けの英英辞典を買わされました。単語を引いても説明がわからない。1つ単語を引いたら、説明文中のわからない単語を全部調べることになるので、結局たくさん辞書を引くようになりました。入部したESSでは、上級生から、Reading Comprehension、英語の歌、Speaking を習いました。留学経験のある先輩に刺激され、私も留学したいと思うようになり、英会話学校へ通っては覚えた文

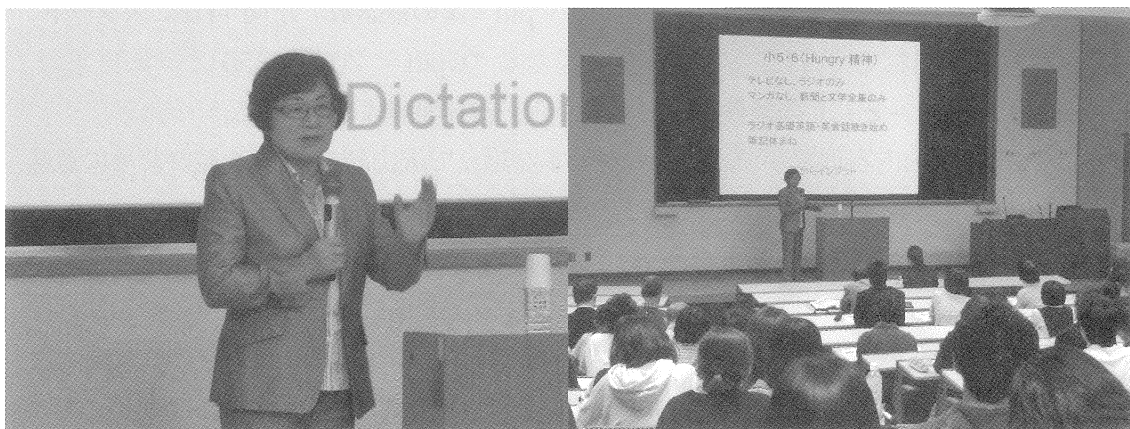
章を使ってみるようにしていました。

努力の甲斐あって無事留学できましたが、周りが話す英語が速くてわからない。宿題が出るんですが、それがまた聞き取れないので、友だちに毎日確認していました。80 ページぐらい出される宿題を、毎日夜中までかかってやりました。日本の中学、高校で文法をみっちり勉強したのに、実際書いてみると苦勞の連続でした。

現場で役に立つ英語、使える英語というのに足りなかったのは、Fluency です。今は教える側に回って、Listening も Speaking も普通のスピードで学生を鍛えています。それと Writing や訳ではなくて、自分で creative な文章を作らせています。それから Repeating とか Shadowing では、テキストを見ないで、耳からだけで練習する。それでずいぶん伸び方が違うと思います。

外国の英語教育の現場を視察した中で、いちばん感心したのはキルギスタンです。LL 教室には機器がない、PC は英文科に 1 台、本も足りません。しかし先生たちの英語力は驚くほど高いんですね。そういう状況だからこそ、自分の耳と、目と、手で、英語に対する感性を伸ばしていかれたのではないのでしょうか。物質的に恵まれた生活をしていると、そういう研ぎ澄まされる感性がだめになってしまうのではないかなあ、と最近の日本の英語教育を見て、思いました。

今、日本の英語教育はほとんど ACCURACY が主で、FLUENCY が少ない。だからといって、FLUENCY だけでやると、ACCURACY がおろそかになる。ぺらぺらしゃべっても、書かせたらめっちゃくちゃ、という学生が増えてきています。ACCURACY と FLUENCY をバランスよく鍛えなければだめなんですね。FLUENCY を鍛えるのは、大学からでも遅くはないけれども、効率が悪い。小学生からたくさん聞かせてたくさん読ませて、FLUENCY と同時に ACCURACY も鍛える、というのをやっていかないといけないと思います。



パネルディスカッション 「4つのスキルを伸ばす英語学習方法」

休憩の後に、高瀬氏、信愛女学院高校の大津氏、英語英米文学科から Lavin 氏、飯村氏をパネリストに迎え、同学科の吉井氏がコーディネーターを務めパネルディスカッションを実施しました。大津氏からは、これまで取り組んでこられた訳読添削学習について紹介がありました。授業外の自主学習の取り組みとして生徒に任意で実施し、英文和訳のテキストを生徒の興味を惹くものから選び課題として与えました。長期にわたる活動を通して英文和訳、それに対する教師からの詳細な添削を通して生徒は着実に英語力を伸ばしていく様子が伝わりました。その効果の一端が先の山下さんの発表でも表れていました。また自らの英語学習法についても言及され、語彙学習の大切さについて強調されました。その後パネリストにより、それぞれのスキルについてどのように学習していけばよいのか理論と実践を踏まえた説明がありました。以下はその内容の要約です。

「Reading について」(高瀬敦子氏)

英語力を向上させるには多読は実用的で大変効果的です。以下のことに留意しながら多読活動が続けていくと楽しく、そして効果的に英語を学ぶことができます。

1 日本語に訳をしないで、英語のまま理解する。

多読初期の人は、日本語の癖をとるために、最初の 2-3 ヶ月で非常に易しい本を 100 冊読む。

2 読書途中で未知語に出会ったら、辞書を引かずに推測してみるか、メモをしておく。

読書終了後に推測した未知語を辞書で確認する。推測が正しければその語彙は修得。

3 読書スピードは 1 分間に 100 語前後(wpm = 本の総語数 / 分)を目安にスタート。読書に慣れてくると、スピードは速くなる (wpm = 200 - 250)。

4 上記の (1 + 2 + 3) の条件を満たしながら、内容理解は 80% 以上。

80% 以上内容理解ができるぐらいの本を選んで沢山読む。速く読むために意味を考えずに字面(じづら)だけ追ったり、絵だけ見て話を推測したり、ページだけめくったりしても、英語は上達しない。

5 楽しく面白い本や自分の興味あるジャンルの本を選択。

楽しい本・面白い本・興味ある本は吸収が良いため集中し易い。これが続くと集中力が向上し、読書耐久力(Reading Stamina)がついてくる。Learn to read by reading (Smith, 1985)!

6. 同じレベル・同じシリーズをまとめ読み

同じ出版社の同じシリーズの Graded Readers (GR) は使用語彙や構文が統一されているため、様々な状況の様々な文章の中で、同じ語彙・文法・構文に頻繁に遭遇し、語彙や構文を修得し易くなる。

7. Graded Readers (GR), Leveled Readers (LR), Young Readers (YR) 並行読み

GR は英語学習者の為に語彙・構文・文法等を制限して書かれた本であり、LR は英語を母国語とする児童用の段階的絵本、社会・理科の副教材としても使用。YR は小学校中・高学年・中学生用に書かれた図書。GR と LR・YR は使用語彙や文法導入順序が異なる。GR は学習用、LR/YR はペーパーバックを読む準備として効果的である。

8. 徐々に本のレベルを上げる

同じレベルの本を 5 - 10 冊読み WPM = 100 ~ 150 以上で内容をほぼ理解できて、楽しく面白く読めたら、徐々に本のレベルを上げる。

9. 読書記録をつける

自分の読書状況を知る事は学習効果を上げる。読書冊数や語数が増えるのを見るのは楽しみであり、励みにもなります。

10. 出版社のお勧めレベルを鵜呑みにしない

各出版社が TOEIC スコアや英検合格取得級を目安にして勧めている本のレベルは、多読初期の学習者にとっては、レベルが高すぎて挫折するが多い。

平易な本を読むことで以下のような効果が期待されます

1. 読める ➡ 楽しい ➡ もっと読みたくなる ➡ もっと読めるようになる
➡ やる気が起こる
2. 語彙・フレーズ・文章・文法認識の自動化が起こる (Automaticity) (見ただけで単語やフレーズを理解)
3. 平易な本を山ほど読めば、基本語彙・フレーズが確実に身に付き、読書スピードが上がりステップアップが容易になる。(どのような小説・テキスト・専門書でも基本単語 1,000 語・2,000 語が約 75-80% を占める)

長期にわたり多読を実施していくことを通して次のような効果が期待されます

読書はピアノやスポーツと同じく、長く続ければ続けるほど上達 (英語力向上) する。学生時代だけでなくその後社会人になっても一生の楽しみとして続けよう。最近は大企業でも多読を推進するところがある。多読を沢山行った人の脳の働きは

Bilingual の脳の働きに似ているという研究結果が脳外科の先生から発表された。Bilingual の人は認知症を発症しないか発症しても 5 年くらい遅いという世界的に有名な研究もある。一生楽しく英語の本を読み続けよう。 **HAPPY READING!!!**

「Listening について」(飯村英樹氏)

リスニングには、①音声の入力、②知覚(音の判別)、③理解(テキストの意味)という3つの段階があります。①は音が耳を通して脳に入ってくる段階で、②は入力された音を意味のあるものとないものに判別する段階です。そして意味のあるものと判別された音だけが、③の段階に進み、意味の処理が行われます。英語を聞いていて、速くて何を言っているのか分からなかったという場合は、知覚の段階で英語の音であることが認識されずに、理解の段階にまで進めなかった状態ということになります。

リスニングのプロセスは、ボトム・アップとトップ・ダウンに大別されます。前者は、音素や語など細部から句、節、文、文章など全体へと処理が進められるプロセスを言います。後者は、聞き手が持っている背景知識(スキーマ)を活性化して、テキストの内容を予測しながら、テキストの理解を進めていくプロセスになります。これまでの研究結果から、ボトム・アップのプロセスを高めることがリスニング力向上に重要であることが分かっています。

人間が言語を一度に処理できる容量には限りがあり、このことを認知資源と呼びます。英語熟達度が低い学習者は、認知資源の多くを「知覚」が占めてしまい、英文の「理解」までまわらない状態になっています。一方、英語熟達度が高い学習者は、「知覚」が自動化されているため、認知資源の多くをテキストの深い「理解」に使うことができます。したがって、リスニングをスムーズに行うためには、知覚を自動化させること、すなわち、ボトム・アップ的な能力をしっかりと身につけることが重要です。

ボトム・アップ的な能力を高めるのに効果的な学習法として、ディクテーション(聞いた英文を書き起こす)や調音練習(正しく発音する)、シャドウイング(聞いた英文を復唱する)などが挙げられます。いずれの方法でも重要なことは、やりっぱなしにしないことです。どの音が聞き取れて(発音できて)、どの音が聞き取れない(発音できない)のかをしっかりと認識するということが、すなわち英語の音声を正しく理解するということが、実は遠回りに見えて確実にリスニング力を向上させると言えます。

「Speaking・Writing について」(Richard Lavin 氏)

ここまでは受容的なスキルについてみてきましたが、ここからは産出的なスキル、speaking と writing についてお話しします。

まずは speaking についてですが、実際の会話においては早い反応が求められるので、学習の中でそれに対応できるようになるための工夫が必要です。まずは、定型表現をなるべくたくさん覚えて、とにかく繰り返し練習することが大切です。そうすることで会話中に文法処理する必要性が減り、会話のスピードについていき、ある程度その会話に参加することができるようになり自信につながります。覚える表現は当然自分のレベルに合ったものが良いでしょう。例えば、初心者が How are you? を覚えるとしたら、中級者はそれ以外に How's your husband/wife/brother/sister/family? と How have you been? などを覚えると良いでしょう。定型表現の暗記の過程を通して知っている表現を増やすだけでなく、徐々に脳内の言語システムを構築していくことになるのです。

また、speaking だけを練習することは難しいので、他のスキルとの組み合わせを考えると良いでしょう。Listening と speaking を合わせると、歌を聞いて歌ったり、映画の面白いセリフを聞いて自分で言ってみたりシャドウイングをしたりすることもできます。Writing と speaking を結ぶことの例として、読んだ本について友達に伝え、それについて話をした後、その会話の中身を思い出して blog などに書き込む、等という活動があります。

Writing を中心に考えると、読んだものについてのレビューや要約を書くことができます。実は、この活動だけでも、かなりの英語の進歩が期待できると思います。レビューが難しいと思えば、本の面白いところを写すだけでも効果的です。写した後に、本当に正確に写しているかどうかを確認するのも良い方法です。そうすることで、いかに正確に書き写せるか、それはまた自分の英語力(英語の知識)ともつながっており、英語力を確認する作業ともなります。

外国語の上達には、二つの側面が重要です。一つは新しい単語や表現を覚え、知識を増やすこと、もう一つは既に持っている知識を自動化し、脳内の言語システムに統合することです。日本では、どちらかと言えば、後者の方をもっと重視する必要があると思います。こう言った活動の多くには、言語のリサイクリングが大きな部分を占めています。既に学んだものを繰り返し練習し、自分のものにしていきます。これによって、知識が深まり、言葉が自動的に使えるようになってきます。



「フォーラムを振り返って」 吉井 誠氏

今回のフォーラムのテーマは「英語の学習法～みつけてみよう、あなたの学習法」でした。フォーラムでは発表者、講演者、パネリストにより様々な学習法が紹介されました。自らの学習体験を踏まえたうえエピソードを交えながら、具体的な学習方法について知ることができました。それぞれが自分に合った学習方法を工夫している様子がよく分かりました。このフォーラムが自分に合った学習法を見出し、楽しく学習を進めていく機会となることを願います。